



水道橋畔発

第 26 号 平成 29 年 6 月



新生東京歯科大学水道橋病院の完成

東京歯科大学水道橋病院
病院長 矢 島 安 朝

東京歯科大学水道橋移転事業の一環として行われていた水道橋病院の改築が、ようやく本年の3月31日をもって完了いたしました。5年間に及ぶ改修工事により、多くの患者様、紹介医の先生方に多大なるご迷惑をおかけし誠に申し訳ございませんでした。また、病棟閉鎖や各診療科の一時移転等にご協力、ご理解をいただき心より感謝申し上げます。

ここに水道橋病院は、最新の耐震構造を備えた安心・安全な病院へと生まれ変わりました。新しい革袋は完成しました。その革袋に新しいワインを注ぎ込まなければなりません。どんなワインを注ぎ込むかが、これからの水道橋病院の大きな命題となります。ワイ

ンの種類を決定するキーワードは、「超高齢社会への対応」「臨床能力の向上」「患者中心の歯科医療」の3つであると考えています。すべての教職員がこの3つのキーワードをそれぞれの現場で、どのように具現化できるのかを考え実行することが、生まれたばかりの新生水道橋病院の今後の成長を決める大きな鍵になるものと思っています。

明治39年、まさにこの地、本学水道橋校舎落成式における後藤新平（当時、南満州鉄道初代総裁）からの「失敗を恐れず全力を尽くせ」という強烈なメッセージは、今も私たちに勇気と自信を与えてくれます。日本で最も古い歯科大学の最も新しい大学病院が、21世紀型歯科大学病院といった高みをめざし、多くの皆様から信頼していただけるようすべての教職員と協力し合って誠心誠意精進してまいりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

病 院 長	矢 島 安 朝
副病院長	末 石 研 二
副病院長	山 下 秀 一 郎
副病院長	高 野 正 行

東京歯科大学水道橋病院

診療科担当医ご案内(レギュラースタッフ)

H29.6.1 現在

診療科	職 名	氏 名	講座名	診療科	職 名	氏 名	講座名	
保存科	部長・教授	古 澤 成 博	歯内療法学	歯科麻酔科	部長・教授	一 戸 達 也	歯科麻酔学	
	講 師	末 原 正 崇			部長代理・准教授	松 浦 信 幸		
		間 奈津子			講 師	半 田 俊 之		
	助 教	佐 古 亮			医局長・助教	久木留 宏 和		
		杉 内 亜紀奈	助 教	吉 田 香 織				
	教 授	齋 藤 淳	歯周病学	矯正歯科	部長・教授	末 石 研 二	歯科矯正学	
	医局長・講師	勢 島 典			講 師	宮 崎 晴 代		
	講 師	大 井 麻 子				片 田 英 憲		
		喜 田 大 智			西 井 康			
		助 教			鈴 木 瑛 一	医局長・講師		石 井 武 展
(今 村 健太郎)	助 教				安 村 敏 彦			
教 授		村 松 敬	海老澤 朋 宏					
准教授		杉 戸 博 記	内 山 沙 姫					
講 師	春 山 亜貴子	小児歯科	部長・教授	新 谷 誠 康	小児歯科学			
	半 場 秀 典		医局長・講師	辻 野 啓一郎				
補綴科	教 授		櫻 井 薫	口腔インプラント科		講 師	櫻 井 敦 朗	口腔インプラント学
	准教授		上 田 貴 之			助 教	本 間 宏 実	
		石 崎 憲	荒 井 亮					
	講 師	竜 正 大	口腔インプラント科	部長・教授	矢 島 安 朝	口腔インプラント学		
		高 野 智 史		客員教授	松 浦 正 朗			
	助 教	太 田 緑		講 師	本 間 慎 也		口腔インプラント学	
		和 田 健		(佐々木 穂 高)				
	部長・教授	佐 藤 亨	医局長・講師	高 梨 琢 也	口腔インプラント学			
	医局長・講師	野 本 俊太郎	助 教	守 源太郎				
	講 師	(四ツ谷 護)		吉 田 光 孝				
	補綴科	講 師	腰 原 輝 純	助 教		平 野 友 基		
			神 田 雄 平		口腔健康科学	科長・教授	福 田 謙 一	
林 原 貴 徳		准教授	大多和 由 美					
教 授		山 下 秀一郎	医局長・助教	半 沢 篤				
講 師		田 坂 彰 規	健康スポーツ歯科	科長・准教授		武 田 友 孝		
		森 岡 俊 行	医局長・講師	中 島 一 憲				
	助 教	中 村 恵 子	摂食嚥下リハビリテーション科	科長・教授	石 田 瞭			
古 屋 克 典		医局長・講師	大久保 真 衣					
大 平 真理子		放射線科	部長・教授	後 藤 多津子	歯科放射線学			
口腔外科	教 授		柴 原 孝 彦	准教授		和 光 衛		
	客員教授		齊 藤 力	医局長・講師		音 成 実 佳		
	病院教授		高 野 正 行	助 教		佐 藤 晶 子		
	講 師	山 本 信 治	渡 邊 素 子					
助 教		渡 邊 章	臨床検査部	部長・教授	井 上 孝	臨床検査病理学		
		吉 田 秀 児		教 授	松 坂 賢 一			
		大 野 啓 介		講 師	村 上 聡			
	関 根 理 予	助 教		國 分 克 寿				
	山 村 哲 生		中 島 啓					
部長・教授	片 倉 朗	内 科	准教授・科長	山 岸 由 幸	内 科			
准教授	笠 原 清 弘	眼 科	科長・教授	ビッセン弘子	眼 科			
医局長・講師	別 所 央 城		講 師	平 沢 学				
講 師	菅 原 圭 亮		助 教	太 田 友 香				
助 教	高 木 亮	() 長期出張中						
	西 山 明 宏							

() 長期出張中

リニューアルした診療室のご案内

3階

スペシャルニーズ歯科
ペインクリニック科
(口腔顔面痛みセンター)
摂食嚥下リハビリテーション科



モニター付のチェアー

4階

歯科麻酔科(リラックス歯科治療外来)



日帰り全身麻酔も同時に2件行うことが可能となりました

4階

放射線科



新設されたコーンビームCT



ーコラムー 「ミュータンス菌の誕生」

小児歯科学講座
教授 新 谷 誠 康

日本の子どもの齲蝕は減少している。しかし、今日の大都市においては、齲蝕のない子どもと齲蝕のある子どもが二極化しており、後者の口腔内は今でも昭和40年代のむし歯の洪水の時代さながらである。重度齲蝕患者が紹介されてくる大学病院の小児歯科では齲蝕の減少が眉唾ごとであるかの様に感じられ、実際に今でも小児歯科患者の来院目的は齲蝕治療が第一位である。

人類はいつからむし歯に苦しんできたのであろうか。縄文人にはむし歯は少なかったといわれているが、それでも8%ぐらいの発症率はあったようである。5年ほど前に、ミュータンスレンサ球菌の齲蝕病原性の進化に関する研究が発表された。ミュータンスレンサ球菌による齲蝕の発生にはグルコシルトランスフェラーゼ（GTF）が最も重要な働きをす

るのであるが、この研究によるとレンサ球菌のGTFは、他の *Lactobacillus* や *Leuconostoc* などの乳酸菌に由来することがわかった。このことから、人類が発酵食品を口にするようになった時、GTFをコードする *gtf* 遺伝子を元々は持たなかったレンサ球菌が発酵食品に含まれる乳酸菌とヒトの口腔内で遭遇し、レンサ球菌にトランスポゾンによる *gtf* 遺伝子の水平伝播が起こったと考えられる。スクロースから多糖類を産生し、口腔バイオフィルム（デンタルプラーク）を形成する能力をレンサ球菌が獲得したのである。進化上、非常に重要なイベントが起こった瞬間であろう。その後、精製された砂糖の消費などによる二次選択圧によりゲノム内での遺伝子重複が起き、現在の齲蝕病原性を得るに到ったと結論している。この説が正しいのならば、齲蝕の原因となるミュータンスレンサ球菌を生み出したのは、なんとヒト自身であることになる。現状を見るに、齲蝕が小児の口腔内から完全に撲滅できる日はいつのことかわからない。人類は有史以前に自らが生み出した敵と今も戦い続けている。

【各診療科等ダイヤルインについて】

※患者さまには各科の直通電話番号を
お知らせ下さいますようお願いいたします。

5階	内 科	03(5275)1926
4階	口 腔 外 科	03(5275)1725
	歯 科 麻 酔 科	03(5275)1851
	放 射 線 科	03(5275)1953
3階	補 綴 科	03(3262)3425 3426
	口腔インプラント科	03(5275)1760
	小 児 歯 科	03(5275)1723
	矯 正 歯 科	03(5275)1724
	スペシャルニーズ歯科・ ペインクリニック科	03(5275)1795
	摂 食 嚥 下 リハビリテーション科	03(5275)1732
2階	眼 科	03(5275)1856
	保 存 科	03(5275)1721 1722
	健 康 ス ポ ー ツ 歯 科	03(5275)1721 1722
1階	医 事 課	03(5275)1932
	地 域 医 療 連 携 室	03(5275)1732

水道橋病院 診療案内

初 診 受 付	平日・土曜とも 8:50～11:00
お問い合わせ 時 間	平日 8:45～18:00 土曜 8:45～13:00
休 診 日	第2土曜・日曜・祝日・ 本学創立記念日（2月12日）・ 年末年始

編 集 後 記

大学移転に伴う改修工事もようやくすべて終了しました。3階のスペシャルニーズ歯科はペインクリニック科と摂食嚥下リハビリテーション科を兼ね備え、それに対応したチェアーを擁します。4階の放射線科、麻酔科も改修で広くなり、コーンビームCTも新たに導入されました。何より外科病棟が新しくなり、清潔感あふれる病棟になりました。4月からは短期大学も開校され、水道橋病院も明るく賑やかになった感じがします。そんな中、本館の裏では日大法学部の校舎の解体が始まりました。毎日通っていると、見慣れた光景であまり変化に気付きませんが、少しずつ水道橋の街も変化しています。思えば現在の西校舎は古くて小さなビルが4棟ぐらい立っていたものが現在の形になっています。ついこの前のことが忘れられて不思議な感覚です。
(片田英憲 記)